

## ユーラシア大陸の顕著な寒波について

### 1. 概況

今年（2012 年）の 1 月半ば以降、ユーラシア大陸では中緯度帯を中心に強い寒気が流入し、気温が平年より低い状態が継続した（図 1）。東アジア北部～中央アジア（モンゴル、カザフスタン及びその周辺）では 1 月半ば以降、ヨーロッパ東部（ウクライナ及びその周辺）では 1 月下旬末以降、異常低温となっている。2 月になって、寒気の影響はヨーロッパ中部から西部にも広がっている。

### 2. 寒波の経過

1 月半ば以降の 1 週間ごとの経過を下表にまとめた。北半球の気温の平年偏差の経過を図 1 として、各地点の経過を図 2 として、それぞれ掲載した。

表 1 この期間に見られた顕著な現象

期間	地域	顕著な現象とその影響
1 月 15 日～21 日	カザフスタン東部 及びその周辺	異常低温となった。 アフガニスタンでは雪崩や寒波で 40 人以上が死亡したと伝えられた（OCHA*、1 月 23 日時点の速報値）。
1 月 22 日～28 日	モンゴル～ カザフスタン東部	異常低温となった。
1 月 29 日～2 月 4 日	モンゴル～ カザフスタン	異常低温となった。
	ヨーロッパ東部	異常低温となった。 寒波の影響で、ウクライナでは 130 人以上が死亡、ポーランドでは 50 人以上、ルーマニアでは 30 人以上が死亡したと伝えられた（それぞれ各国政府の 2 月 5 日時点の速報値）。

\*国際連合人道問題調整事務所（UN Office for the Coordination of Humanitarian Affairs）

### 3. 大気の流れの特徴

1 月半ば頃に、偏西風の蛇行に伴いシベリア西部で高気圧の勢力が強まり、高気圧の周縁に沿って、シベリア東部の強い寒気がモンゴルからカザフスタン付近に流入した。その後 2 月初めにかけて、この高気圧は勢力をさらに強めながら、ロシア北西部からヨーロッパ北部にまで次第に広がり、それに対応して、カザフスタン付近の寒気が高気圧の南縁に沿ってさらにヨーロッパ西部まで流入した（図 3）。

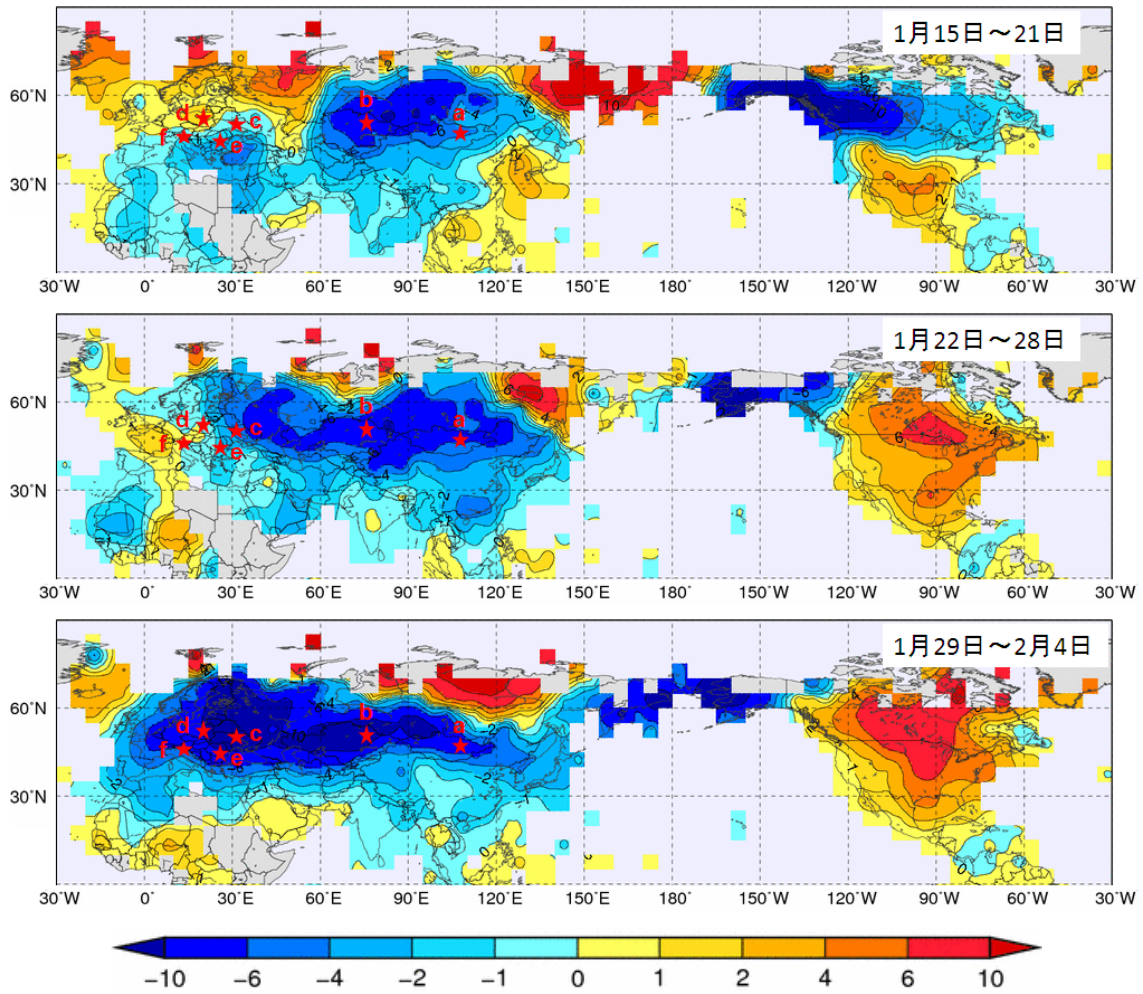


図1 2012年1月15日から2月4日の週ごとの気温平年差 (°C)  
 各国からの通報データによる。図中の星印 (a~f) は以下の各地点の位置を示し、図2に気温の経過を掲載する。  
 a: モンゴル・ウランバートル、b: カザフスタン・アスタナ、c: ウクライナ・キエフ、d: ポーランド・ワルシャワ、e: ルーマニア・ブカレスト、f: イタリア・トリエステ

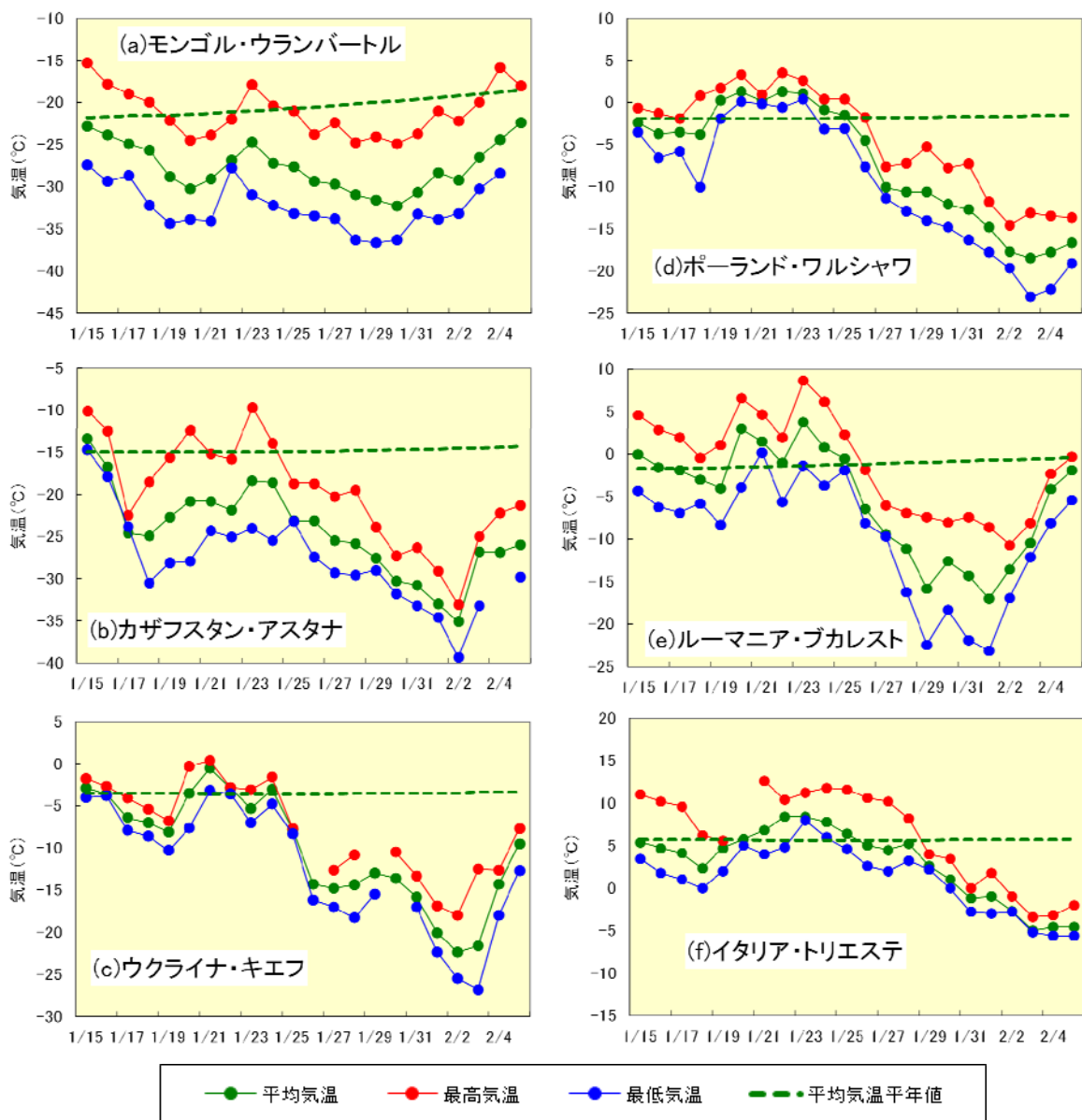


図2 各地点での気温の2012年1月15日から2月5日の経過  
 実線は気温の観測値、点線は気温の平年値（単位：℃）。  
 各国からの通報データによる。

2012年1月末～2月初め

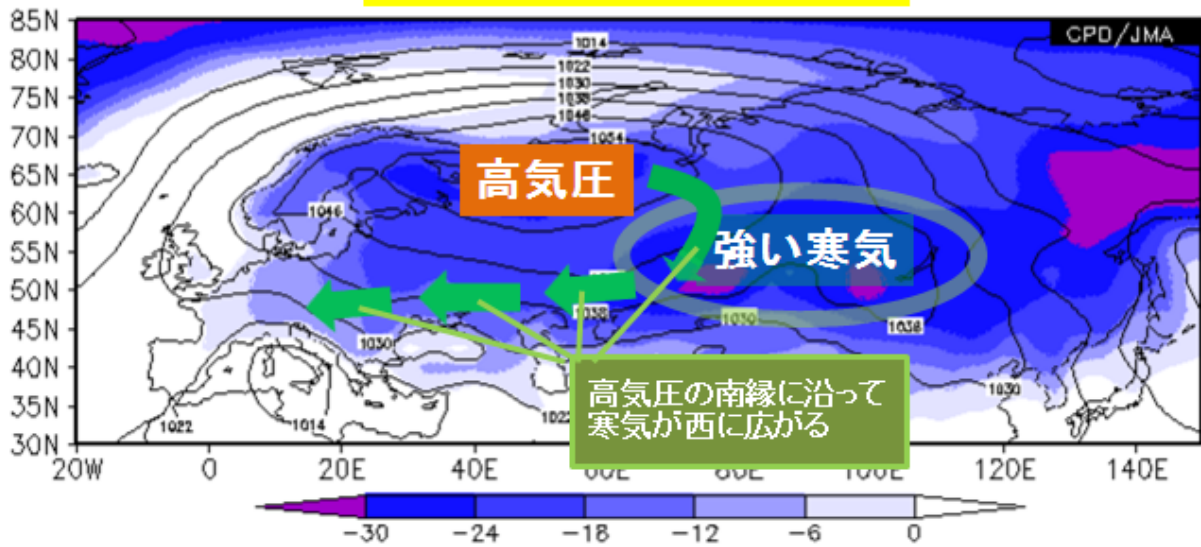


図3 海面気圧と地表付近の気温（2012年1月29日～2月4日平均）  
黒実線は海面気圧（hPa）、寒色陰影は地上2mの気温（°C）を表す。